ESET Server Security for Linux
オンラインヘルプ補足資料

第 1.0 版

■改訂履歴

版数	改訂日	改訂内容
1.0	2026/7/8	初版

■本書について

○ 本資料は、ESET Server Security for Linux（以降、ESSL）のオンラインヘルプの内容を補完する位置づけの資料です。ESSL を使用する際には、下記オンラインヘルプも併せて参照ください。

https://help.eset.com/essl/13.2/ja-JP/

○ 本資料には、ESSL の管理製品である ESET PROTECT(以降、EP)および ESET PROTECT on-prem (以降、EPO)の基本的な機能や用語に関する説明はありません。基本的な機能や用語については、EP および EPO のマニュアルやオンラインヘルプを参照ください。

○ 本資料は、本資料作成時のソフトウェア及びハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能及び名称が異なっている場合があります。また本資料の内容は、改訂などにより予告なく変更することがあります。

■注意事項

オンラインヘルプの注意事項を以下に記載します。
オンラインヘルプに記載されている内容と異なる場合、本資料に記載された内容を正とします。

[要件とサポート対象の製品]

○ 日本では以下のオペレーティングシステムがサポートされます。

OS
RedHat Enterprise Linux (RHEL) 8 64-bit
RedHat Enterprise Linux (RHEL) 9 64-bit
RedHat Enterprise Linux (RHEL) 10 64-bit ※4
Ubuntu Server 22.04 LTS
Ubuntu Server 24.04 LTS ※1
Ubuntu Server 26.04 LTS ※6
Debian 11
Debian 12
Debian 13 ※3
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 15 64-bit
SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 16 64-bit ※5
Amazon Linux 2023 ※1
Alma Linux 8 ※2
Alma Linux 9
Alma Linux 10 ※4
Rocky Linux 8
Rocky Linux 9
Rocky Linux 10 ※4
Oracle Linux 8
Oracle Linux 9 ※4
Oracle Linux 10 ※4

※1 EP または EPO（ESET Management Agent 11.2 以降）で管理可能
※2 EP または EPO での管理はサポート対象外
※3 EP または EPO12.1（ESET Management Agent 12.3 以降）で管理可能
※4 EP または EPO13.0（ESET Management Agent 12.5 以降）で管理可能
※5 EP または EPO13.0（ESET Management Agent 13.0 以降）で管理可能
※6 EP（ESET Management Agent 13.2 以降）で管理可能

セキュア OS の対応状況
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/3223?site_domain=default

○ サポートされている言語は、日本語(日本)になります。

[サービスを購入する方法]

○ サポートへ問い合わせをする場合、「お問い合わせ」に記載のリンクページではなくユーザーズサイトの「サポート情報」の欄を参照してください。

目次

1　パッケージ

インストールについては、オンラインヘルプの「インストール」の項目を参照してください。ここでは、主に導入における前提条件や製品の注意事項、オンラインヘルプに記載のない補足事項について記載します。

本製品を導入する前に、OS の最新アップデートをインストールしてください。

1.1 前提条件パッケージ

本製品を導入するにあたり前提条件は以下となります。ESSL をインストールする前に以下パッケージがインストールされていることを確認ください。

また、以下記載のパッケージバージョンは予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

当社では以下の kernel で動作検証を実施しております。

・Redhat 系の場合、kernel 4.18.0-553/ kernel 5.14.0-687/ kernel 5.15.0-321/ kernel 6.12.0-211/ kernel 6.12.0-203 にて実施
・AWS kernel の場合、kernel 6.12.79-101.147 にて実施
・SUSE Linux の場合、kernel 6.4.0-150700.53.60/ kernel 6.12.0-160000.35 にて実施
・Ubuntu の場合、kernel 6.8.0-124/ 7.0.0-27 にて実施
・Debian の場合、kernel 5.10.0-44/ 6.1.0-50/ 6.12.94 にて実施
・glibc 2.28 以降のバージョンが導入されていること
・en_US.UTF-8 エンコーディングロケール

!重要

ELREPO カーネルを使用した Linux ディストリビューションはサポートされていません。

オペレーティングシステム保護プロファイル(OSPP)の RHEL はサポートされていません。

1.2 導入パッケージ

ESSL をインストールするコンピューターには「1.1 前提条件パッケージ」に記載されているパッケージのほかに以下のパッケージも導入されます。

・サポート OS 共通で必要とされるパッケージ
- openssl
- gcc
- perl
- nftables
- nss-tools（SUSE の場合 mozilla-nss-tools、Debian 系の場合 libnss3-tools）
- sqlite（SUSE の場合 sqlite3、Debian の場合 libsqlite3）
- tar
- make

・上記以外で RHEL, Amazon Linux, AlmaLinux, Rocky Linux, Oracle Linux に必要とされるパッケージ
- kernel-devel
- kernel-headers

・上記以外で SUSE Linux に必要とされるパッケージ
- kernel-default-devel
- kernel-macros
- linux-glibc-devel

・上記以外で Debian, Ubuntu に必要とされるパッケージ
- linux-headers-generic
- linux-headers-generic-hwe
- libelf-dev
- libudev1
- cron
- anacron
- btrfs-progs
- libcurl

ワンポイント

OS リポジトリに接続できる環境で「1.1 前提条件パッケージ」記載のパッケージが事前にインストールされている場合、ESSL インストール時に OS リポジトリより自動的に取得し導入します。

上記記載のパッケージと依存関連パッケージの導入が必要です。

ただし、Ubuntu Server 22.04 LTS や UEK カーネルの Oracle Linux 8 の最新カーネルで必要な「gcc-12」については、手動で導入する必要があります。

!重要

ESSL は kernel のバージョンを揃えないとリアルタイムファイルシステム保護機能、および Web アクセス保護機能を有効化することができません。

必ず以下が揃っていることを確認してください。

■RHEL, Amazon Linux, AlmaLinux, Rocky Linux, Oracle Linux

- kernel
- kernel-devel
- kernel-headers

■SUSE Linux

- kernel-default
- kernel-devel
- kernel-default-devel
- kernel-macros

■Debian, Ubuntu

- linux-headers-generic
- linux-headers-generic-hwe

2 Web インターフェース

ESSL をインストールすると Web インターフェースが自動で利用可能になりますが、EPO からのリモートインストールでは Web インターフェースが有効ではありません。

特定のコンピューターで Web インターフェースを有効にする場合やアクセス方法について記載します。

詳しいオプションについてはオンラインヘルプの「コマンドと ESET Server Security for Linux」を参照してください。

2.1 Web インターフェースの登録

Web インターフェースとして使用する IP アドレスを登録します。
ポート（既定値：9443）を変更する場合も、ここで変更可能です。

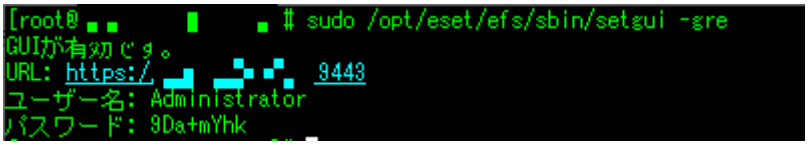
```
sudo /opt/eset/efs/sbin/setgui -i <IP アドレス>:9443
```

2.2 Web インターフェースの有効化

Web インターフェースを有効にするにはターミナルウィンドウから次のコマンドを実行します。

```
sudo /opt/eset/efs/sbin/setgui -gre
```

Web インターフェースが有効化され、URL、ユーザー名、パスワードが表示されます。



Web インターフェース関連の詳細はオンラインヘルプをご確認ください。
https://help.eset.com/essl/13.2/ja-JP/using.html